

# 村上市景況調査報告

平成27年4～6月期の実績と平成27年7～9月期の見通し

調査時期：2015年7月中旬～2015年8月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 119社（回収率59.5%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社  
〔地区別内訳〕 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社

実施機関：村上市商工観光課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

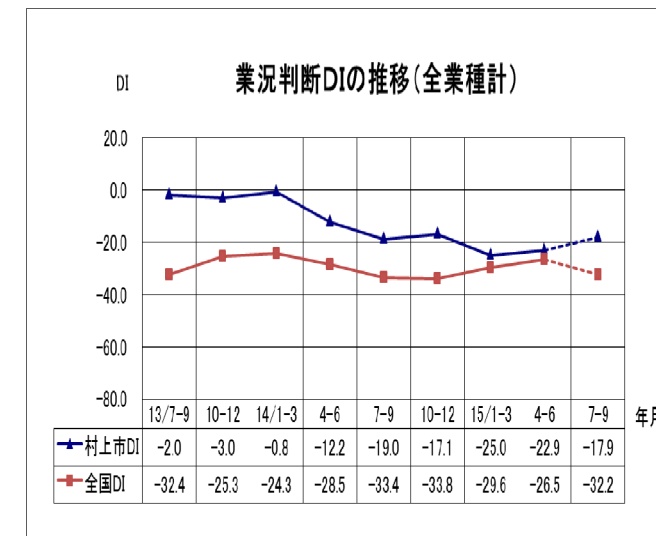
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2015.4～6実績、2015.7～9見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

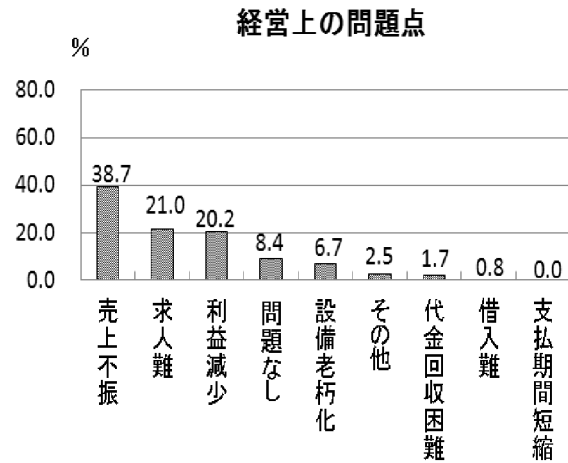
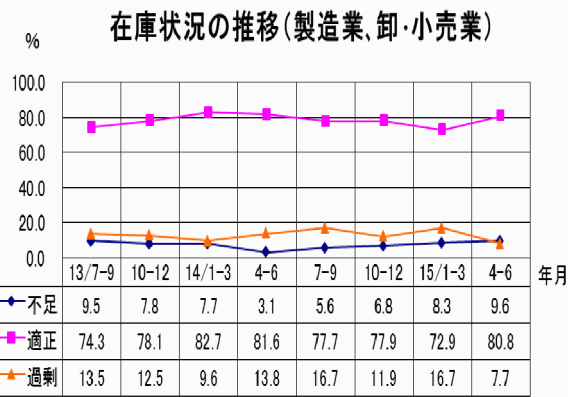
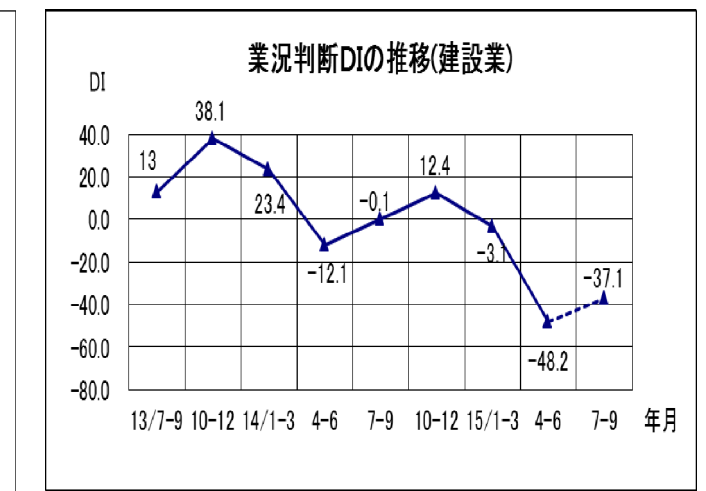
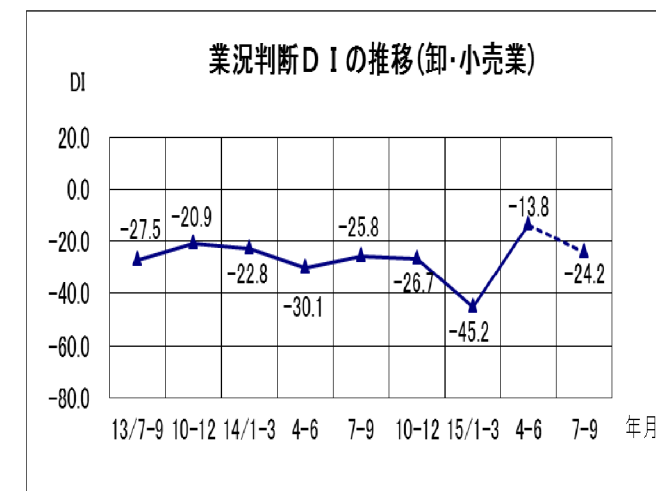
『市内の景況は緩やかに回復している』

村上市の業況

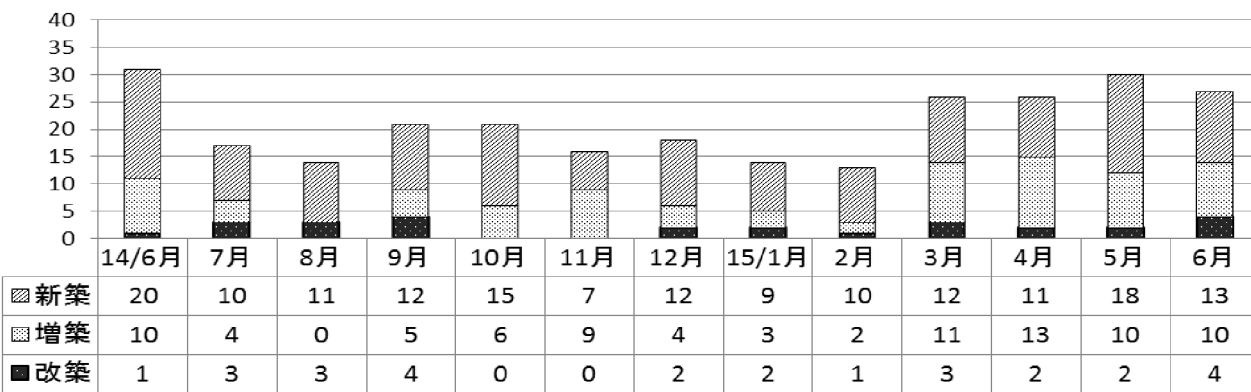


今期(15/4～6月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(15/1～3月期)に比べて2.1ポイント上昇し22.9となった。前期における今期予測よりも0.5ポイント上回ったが、消費税増税でDIが落ち込んだ前年同期と比べると10.7ポイント低下している。DIが上昇した要因は、建設業を除く全業種でDIが上昇したため。特に卸・小売業が31.4ポイントの上昇で群を抜いている。

来期(15/7～9月期)のDIは、更に5.0ポイント上昇する見通し。特に飲食・宿泊業がトップシーズンに期待し68.1ポイントの大幅改善を見込む。ただ、円安の影響による原材料等のコスト増や、人手不足感(経営上の問題<P4>で「求人難」が2位に浮上)、人件費の上昇などが景況感を押し下げている要素もあるため留意が必要だ。

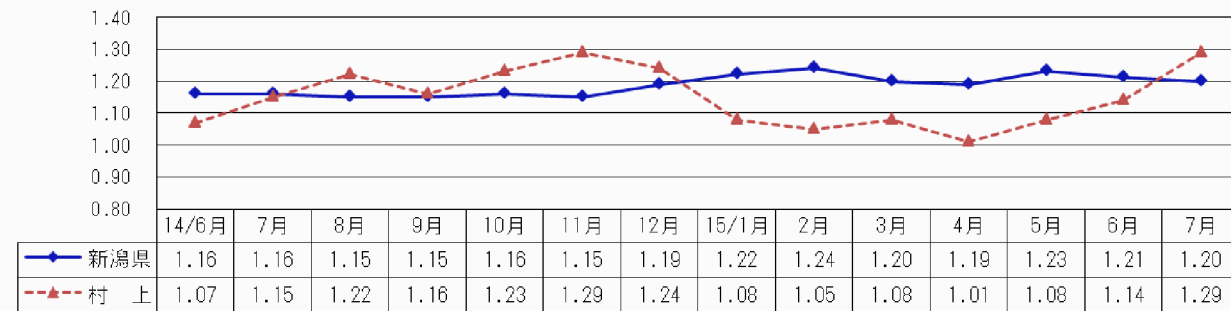


## 建築確認申請・工事届件数



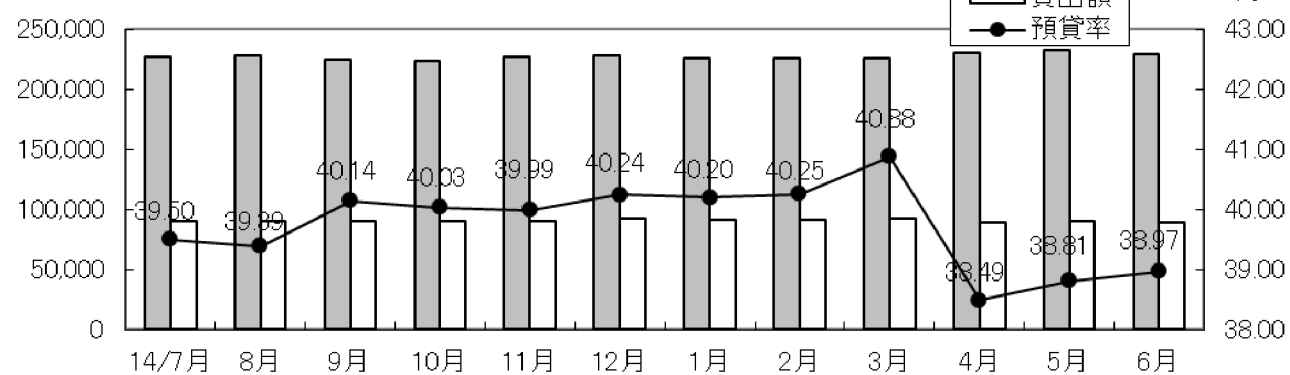
本データは、新築・増築・改築の申請があった建築確認申請(民間受付含む)と工事届の合算となります。

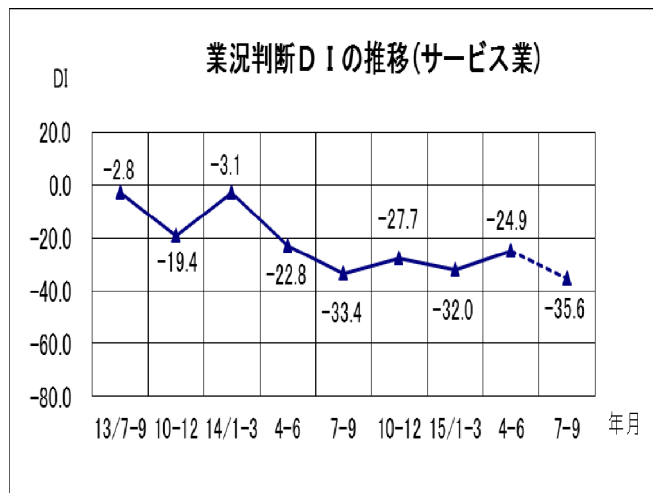
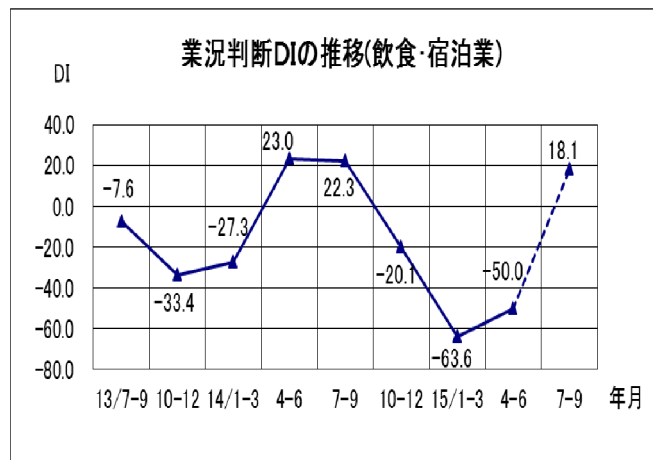
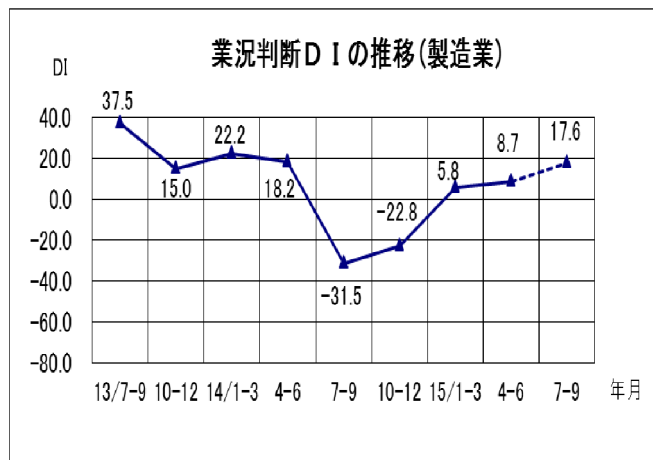
## 村上職安管内有効求人倍率(パートを含む全数)



前回(14/2月～15/3月)より、「パートを除く常用」から「パートを含む全数」の有効求人倍率に変更しています。

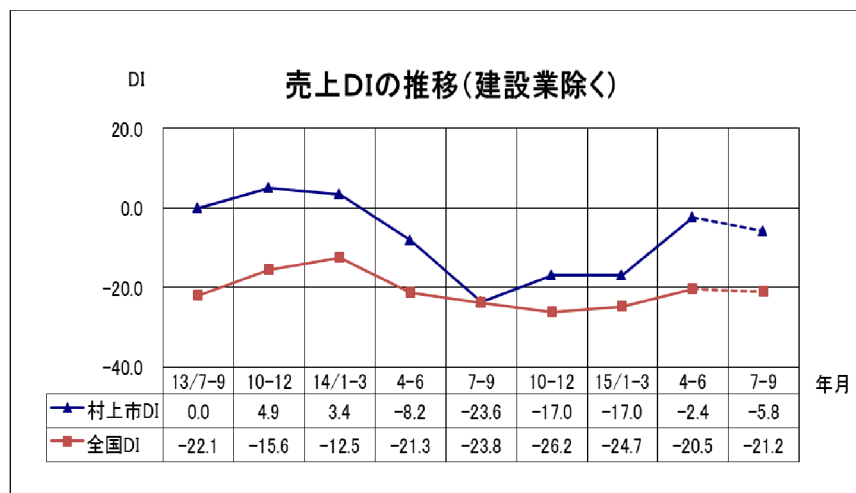
## 村上市・岩船郡内金融機関預貸状況





今期の業種別業況判断DIは、前期比で建設業が公共工事減少や受注不振により45.1ポイントの大幅低下となったが、その他の業種は上昇した。特に卸・小売業は、季節的な要因や消費税増税の影響が一巡したことなどで31.4ポイントの大幅改善となった。製造業は住宅着工の回復の兆しや受注増加等により3期連続でDIが上昇している。

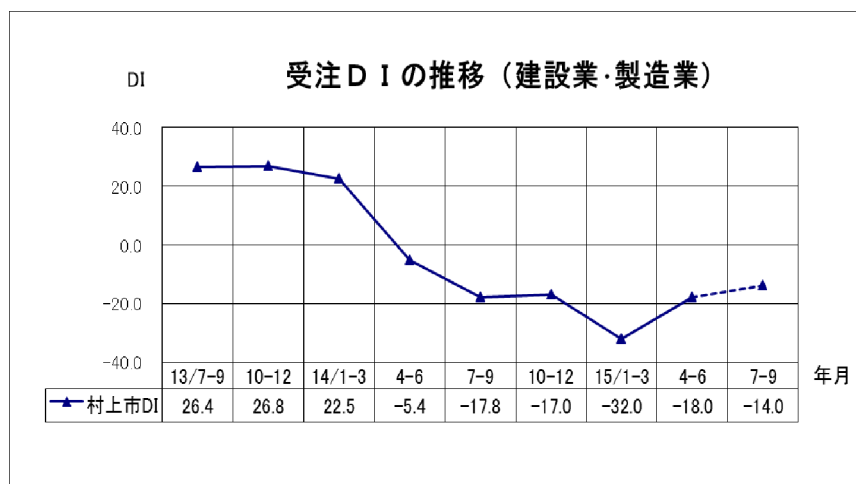
来期は、トップシーズンの需要を期待する飲食・宿泊業でDIが68.1ポイントと大幅に改善する見込みで、製造業や建設業も受注確保に努め、それぞれDIが上昇する見通し。寄せられたコメントに、客単価が低下(卸・小売業)、受注が少し増加する予定(建設業)、輸出が昨年より順調(製造業)、行楽シーズンで人の流れが良くなる(飲食・宿泊業)、介護報酬の減額が響く(サービス業)等があった。



今期の売上DI(建設業除く)は前期比14.6ポイント上昇し2.4となった。前期における今期予測よりも2.2ポイント上回り、前年同期比でも5.8ポイント上回った。

全国DIも前期比4.2ポイント上昇し20.5となった。上昇は2期連続。

来期については、3.4ポイント低下し5.8となる見通し。全国DIも、0.7ポイント低下し21.2となる見通しである。

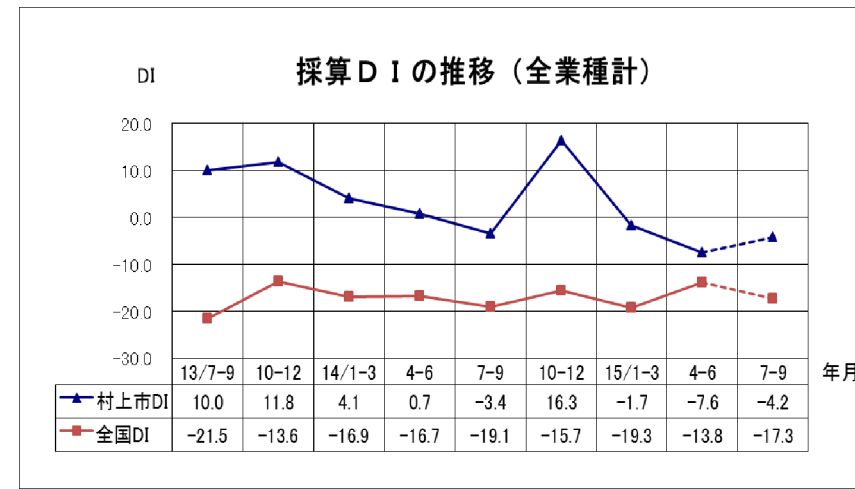


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期比14.0ポイント上昇し、18.0となった。前期における今期予測よりも12.5ポイント上回ったものの前年同期比では12.6ポイント下回っている。

来期については、4.0ポイント改善し14.0となる見通し。

DI内訳

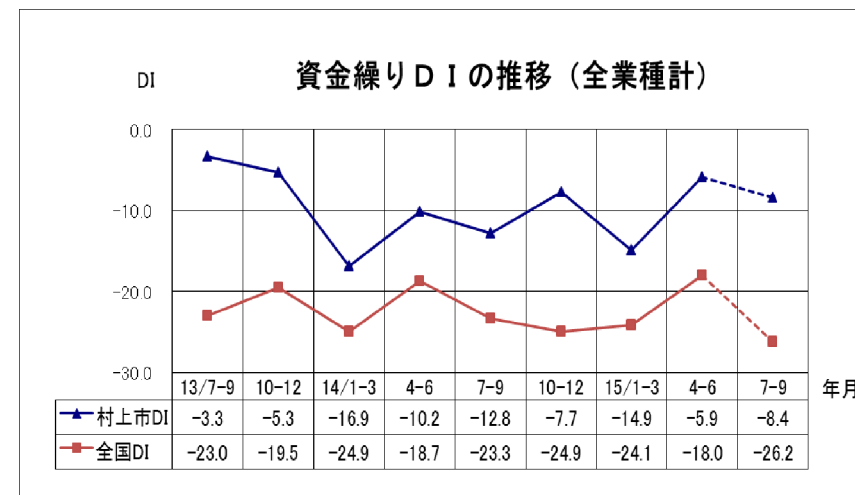
	前期	今期	来期
建設業	46.7	57.7	38.5
製造業	0.0	26.1	8.8



今期の採算DI(全業種計)は、前期比5.9ポイント低下し7.6となった。前期における今期予測より3.4ポイント下回り、前年同期比でも6.9ポイント下回った。

全国DIは、前期比5.5ポイント上昇し13.8となった。前年同期実績と比べると3期振りに上回っている。

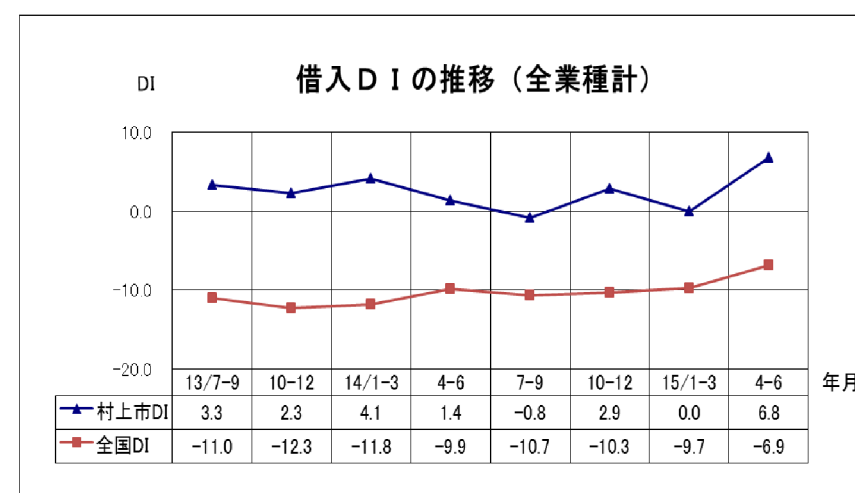
来期については、3.4ポイント改善し4.2となる見通し。全国DIは3.5ポイント低下し、17.3となる見通しである。



今期の資金繰りDI(全業種計)は、前期に比べ9.0ポイント上昇し5.9となった。前期における今期予測より5.1ポイント上回っており、前年同期比でも4.3ポイント上回っている。ここ1年余り一進一退を繰り返している。

全国DIは、前期比6.1ポイント上昇し18.0となった。

来期については、2.5ポイント低下し8.4となる見通し。全国DIも8.2ポイント低下し、26.2となる見通しである。



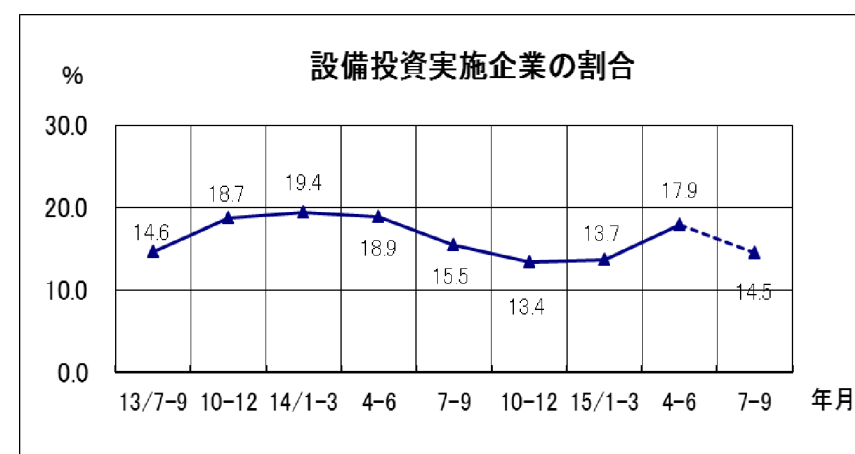
今期の借入DI(全業種計)は、前期0から6.8に上昇した。

内訳は以下の通り

「容易になった」  
前期 4.2% 今期 7.6%

「変わらない」  
前期 40.3% 今期 42.0%

「難しくなった」  
前期 4.2% 今期 0.8%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期比4.2ポイント上昇し17.9%となった。2期連続の上昇だが、前年同期と比べると1.0ポイント下回っている。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、3.4ポイント低下し14.5%となる見通しで、前年同期比でも1ポイント下回る予定。